

第 501 号

2025 年 4 月 27 日

土佐のわらべ

オーテピア高知図書館

子どもの本の読書会だより

《第 523 回(2025 年 4 月 10 日) 子どもの本の読書会記録》参加者:9 人

時間:10:00~11:30 場所:オーテピア 4 階集会室

『富士山うたごよみ』 俵 万智/短歌・文, U.G.サトー/絵 福音館書店

4月の課題図書は、『富士山うたごよみ』でした。二十四節気が立春から順番に紹介されており、そこに俵万智さんの短歌とコメント、そして U.G.サトーさんの描く富士山の絵が添えられている絵本です。季節、そして、ことばと絵の力を感じることができます。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

●短歌はとっつきにくいと思うが、俵万智は現代的で親しみやすい。「立春」のページが好き。体言止めの短歌は、余韻を感じることができる。自分の好きな人や、自分のまわりの人を詠んでいる本だと思う。自分も飼っていた犬のことなどを思い出し、自分なりに短歌を楽しんだ。

●俵万智と同年代。60代になった俵万智の短歌も読んでみたいと思った。二十四節気の中には知らないものもあり、初めて二十四節気の全てを認識した。タイトルに「富士山」とあるのを不思議に思っていたが、どの絵にも富士山があることに気づき、楽しかった。「雨水」や「大寒」がよかった。

●何気ないひとコマが描かれている。目に見えないものに名前を付ける日本人のすばらしさ。自分の身の回りのものを大切にしたいと思った。そして、画家のセンスとユーモアを感じた。最後の松居直さんの文章にもあるが、ことばと絵が一体になっており、ことばの大切さを感じた。折に触れてページを開きたくなる本。

●絵と歌と一緒に楽しんだ。松居直さんが「絵とことばと友達になる絵本」と書いているが、そのとおり。絵の中に富士山を探すのも楽しかった。季節巡りをしているようだった。疲れたときに、自然と文章を楽しめる本。最後が「大寒」。横に人がいる歌が添えられていて、ほっこり、暖かくなって締めくくられているのがよい。

●見て楽しい絵本。カラフルな絵がアイデアに富んでいる。声に出して読んでみると、より意味が深まる。応援されているように感じて、楽しかった。何気ないことが何気なく書かれている。絵と文とリズムが楽しかった。U.G.サトーの他の作品も見たいと思った。

●U.G.サトーの絵にやられた。出版当時に俵万智が、子どもの目が輝く本だと言っている。五感や想像力を掻き立てられる。今の子どもたちがあまり体験していない、季節や自然に対する営みを学ぶことができる。「立冬」が好き。聴覚から伝わってくる感じ、イラストが寒そうなところがよい。

●シルエットだけでも分かる富士山のデザイン性を感じた。イラストが明るく分かりやすい。色使いが日本的で、短歌に合っている。一度読んで終わりではなく、何度もめくって楽しい本。子どもが最初に短歌に触れるのに良い本だと思う。短歌は触れていないととっつきにくい、最初の本が自由だと受け入れやすくなる。

●季節について思い出すこと、感じることは自分のふるさとや経験とむすびついていると思う。時間がゆっくり流れているように感じた。季節によって変化していく青色がよかった。子どもと一緒に、毎年やってくる季節のことや思い出などを話しながら読むと楽しい本だと思う。

●奇想天外な本。インパクトのある絵、俵万智の短歌、どちらも主張が強く、統一感はないが、心をつかまれた。不思議な本だが、季節を感じることを大切にすること、短歌に親しむことを目指した本。富士山のイラストがよい仕事をしている。U.G.サトーのイラストが子どもたちを惹きつけると思う。

次回 5 月 8 日(木)10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

『ハートビート』 シャロン・クリーチ/作, もき かずこ/訳, 堀川 理万子/絵 偕成社

※申込み・参加費は不要です。